

ひかり

2021 年 10 月号



All Saints

日本聖公会 三光教会

〒142-0064 東京都品川区旗の台 6-22-24

電話 03(3781)2554

FAX 03(3781)2544

<http://nssk.org/tokyo/church/sanko/stephen/>

創立 救主降誕 1912 年(大正元年)11 月 2 日

第 697 号

主よ、どうぞみ民の罪を赦し、豊かなみ恵みにより、弱さのために犯した罪の束縛から解放してください。天の父よ、救い主、イエスキリストのいさおによってお願いいたします。アーメン

(聖霊降臨後第 21 主日特祷)

呼びかけに応える信仰

― 創立記念日を迎えるにあたって ―

司祭 アモス金 キム デウオン 大原

1875 年 W・B・ライト師が四ツ谷に講義所を開いて宣教しはじめた後、何回もの移転、連合分離、独立、合同の歴史を経て、1912 年に三光教会が成立するまでの、故郷を離れて見知らぬところに向かった宣教師たちの情熱と、変化をいとわず挑戦し続けてきた信仰の先祖たちの労苦をおぼえます。

時代が変わっても守るべきものがあれば、時には心を新たに自分で自分を変えていかねばならないこともあるでしょう。これは信仰の大事なテーマでもあります。時々、キリスト教信仰はわたしたちに見慣れぬところ、新しいところに向けて一歩を踏み出す勇気を求めます。弟子たち、特にフィリピの弟子と呼ばれてからの行動を見ると、考えさせられることが多くあります(ヨハ 1:43-50)。

フィリポはイエス様に呼びかけられると、すぐ新しい歴史が始まると気づかされました。それで時代のことで一緒に悩んでいた仲間ナタナエルのとこに駆け寄り、イエス・キリストとの出会いとその時の感動を伝えました。しかし、ナタナエルは古い律法による先入観と偏見にとらわれていました。「ナザレから何か良いものが出るだろうか」という言葉で、仲間の気づきを疑い、その感動を無視したのです。

ナタナエルは律法学者として認められていました。福音書に記されている「いちじくの木の下」は人たちが集まってイスラエルの律法について議論するところでした。虚飾や偽善もありますが、真実と情熱に満ちたところでもあります。それで、主はナタナエルのことを「まことのイスラエル人で、偽りが無い」と言われたわけですが、しかし、情熱だけでは足りなかったのでしょうか。その情熱が真実なものであっても真理を知るには役に立たなかったようです。真のメシア、真の師匠との出会いと感動の証を聞いて、ナタナエルは出身地域云々と言っているのです。

時代のしるしを見ることができず、旧態依然たる過去の目で現実を見ているわけです。

信仰とは偏見と固定観念の壁を超えることです。その壁を取り壊し、心のドアの前に立つておられる主イエスを迎え入れることが信仰なのです。キリスト教の信仰は、変化を恐れず、絶えず自分を刷新し、自己中心性を脱して皆との共同の視線で現実と未来を見ることを求めます。

かつて宣教師たちがこのようにな心構えを持っていなかったら、果たしてこの地に三光教会が建てられたでしょうか。信仰の先祖たちの勇氣ある挑戦と決断がなかったら、三光教会は 100 年以上の伝統を有することができたでしょうか。

11 月 14 日は我が教会の創立記念日です。神の約束を固く信じて見慣れぬ地に足を踏み入れ、新しい道を拓いた先祖たちをおぼえ、その種を芽吹かせ、成長させ、数えきれないほどの実を結ばせてくださった神に感謝し、わたしたちがその精神を継承していくと決断をする日なのです。

「仕える者として」

―執事に任じられて―

執事 ヤコブ萩原 充

10月2日(土) 聖アンデレ主
教座聖堂にて執事按手の恵みに与
ることができました。三光教会お
一人おひとりのお祈り・お支えに
大変感謝しております。

ギリシア語の原語で執事とい
う言葉は「仕える者」という意味
です。主イエスの「皆に仕えるも
のにならなさい」「すべての人の
僕にならなさい」というみ言葉を
恵みとして、仕える者としての恵
みをかみしめて生きるにはどのよ
うにしたらよいのかを、執事按手
を受けるにあたり思いめぐらして
いました。

自分の人生の歩みを少し振り
返ってみますと、自分に向いてい
る仕事ではないような気がしてい
るところもありましたが、大学時
代のアルバイトでフィットネスス
クラブのインストラクターという仕
事に出会ってから、卒業後旅行会
社での添乗員、フレンチレストラン
でのサービス、ソムリエ、そし

て自分の店の経営と、なぜかずつ
とサービス業に携わってきました。
サービスすることのよろこび、そ
の旨味を味わってきました。誰か
のよろこぶ顔を見ることが、自分
のしたことに対してありがたうとい
ってもらえること。幸せを感じて
もらっている空間を共にできるこ
と。それはお金に換えることがで
きない、まさにプライスレスなも
のです。

そして主イエスに呼ばれ、キ
リスト者となり、自分がひらかれ
て、自分の経験や予想を超えた、
新しいものと出会うよろこび、そ
して与えることが同時に受けるこ
とであるという相互関係、神と人
とのつながりを生きるよろこびを
知ったわたしは、その味わいを今
度は多くの人と分かち合って生き
るようにと、神から招かれている
のだと考えます。

なぜわたしたちに主イエスは
「皆に仕えるものにならなさい」
「すべての人の僕にならなさい」
といわれるのでしょうか。それは、
与えることが同時に受けることで
あるという相互関係を生きることで
あること、神と人とのつながりを生きるよろ
こびをわたしたち一人ひとりに味

わってもらいたいからなのではな
いでしょうか。

仕えることは自己犠牲のよう
に思えますが、そうではなく、つ
ながりを生きていることを実感す
ることのできる瞬間(とき)だと
わたしは思います。あなたがあつ
て、わたしがあるという、人間を
人間であらしめる根源的なつなが
りを、仕えることによって味わつ
てもらいたいというのが主イエス
の切なる願いなのではないでしょ
うか。その主の願いをかなえる務
めを、微力ながらこれから担って
いければと考えております。



10月2日 教区主教と共に

『聖公会手帳2022』発売!!

管区事務所編集『聖公会手帳』

2022年版が10月中旬に刊行
されました。新しく背文字に「日
本聖公会2022」と全文字記さ
れています。

活字の大きな大型版は2,200
円、携帯に便利なポケット版は
1,200円(それぞれ税込)
教会にて取り扱っております。お
早めにお求めください。

10月～12月の予定

◆10月

17日(日) 聖霊降臨後第21主日
18日(月) 福音記者聖ルカ日
24日(日) 聖霊降臨後第22主日
28日(木) 使徒聖シモン・使徒聖ユダ日
31日(日) 聖霊降臨後第23主日

◆11月

1日(月) 諸聖徒日
逝去者記念聖餐式礼拝
2日(火) 諸魂日
7日(日) 聖霊降臨後第24主日
10日(水) 主教教会博士レオ
11日(木) 主教マルチン
14日(日) 聖霊降臨後第25主日
三光教会創立記念日

17日(水)

修院長ヒルダ

21日(日)

降臨節前主日

22日(月)

殉教者おとめセシリア

23日(火)

殉教者主教ローマのクレメント

28日(日)

降臨節第1主日

30日(火)

使徒聖アンデレ日

◆12月

2日(木)

日本聖公会初代主教ウイリアムズ

3日(金)

アジアの殉教者とフランシス

5日(日)

コ・ザビエル
降臨節第2主日

公 示

日本聖公会東京教区三光教会の2022年度教会委員の選挙を
日本聖公会法規に従って実施いたします。

救主降生2021年11月7日 聖霊降臨後第24主日

日本聖公会東京教区 三光教会

牧師 司祭 アモス 金 大原

記

1 投票方法

(1) 所定の「投票用紙」を用いてください。

(2) 教会委員として投票したい方を10名(10名以内で可)の
氏名を投票用紙の枠内に記入してください。

(3) 教会内に設置された投票箱へ投票してください。牧師宛て
郵送も可能です。

(4) 投票は無記名です。

選挙期間

2021年11月7日(日)～2021年12月5日(日)

開票は12月5日(日)降臨節第2主日聖餐式Ⅱの後に行ないます。

※郵送の場合は12月4日(土)必着にてお願いいたします。

選挙管理委員は次の方を任命します。

大久保郁子、高田智子、吉川晃

なお、教会委員は当選された10名と、その10名が推薦した5名の
計15名で構成されます。また、前年の教会委員のうち、直近の継続
期間のより長い人(同期間の場合は通算在任期間の長い人)3人を
非選挙人名簿からはずします。ただし、この3人の被選挙権は翌年
度には回復されます。今年度は上記の規定に大久保郁子、高田智子、
吉川晃の3氏が該当します、

堅信受領者 各位

三光教会 選挙管理委員会

教会のお掃除にご協力を

聖堂内外のお掃除の協力者が
少なくなりました。土曜日の午
前10時から1時間程ご奉仕くだ
さい。ご協力いただける方は直
接参加してください。(休止中)

はじめて教会にいらした方へ

礼拝様式に馴れない方は椅子に
お掛けになったままで結構で
す。

●礼拝中の献金は、信施金とし
て伝道のために献げられるも
のです。金額は自由です。

●わからない点は隣の席の者か
案内係にお聞きください。

礼拝のご案内

■主日礼拝

午前 7:00 早祷・嘆願
午前 7:30 聖餐式
午前 9:00 ステパノ会
(日曜学校)礼拝
午前 10:30 聖餐式
午後 4:00 夕の礼拝

■平日礼拝

月曜日から土曜日までは、
毎朝6:30の早祷に引き続いて聖餐式